

スキー場がついた おうち

Chalet on Powder Mountain
アメリカ合衆国ユタ州

長坂常

Lloyd Architects

Jo Nagasaka / Schemata Architects

Lloyd Architects



南側鳥瞰。敷地は、アメリカ・ユタ州のソルトレイクシティの山頂付近に位置し、北側に自然公園を見下ろすシャレー群の北端に建つ。夏は乾燥し、冬は大雪が降る美しい景色を見渡せる斜面地に鉄骨造の躯体を立ち上げ、その上に断熱性の高い木造の箱を乗せた構成。*



南西側全景。冬には自然公園がスキー場にもなる。スキーコースから直接アクセスできるように、1階に収納スペースや乾燥設備などを備えた20㎡のマッドルームを設けている。木造部は鉄骨造のヴォリュームよりひとまわり小さく、その間が外部動線となっている。



2階ダイニングからリビングを見る。南北に大きな開口を設けた開放感のある一室空間。天井や内壁は、鉄鋼造の躯体に構造用合板を取り付け現しとしている。梁下端までの高さは約2,700mm。



テラス。片流れ屋根はテラス側に傾斜しており、テラスに落とされ
た雪は、テラス床の温水融雪システムと雪掻きによって除雪する。



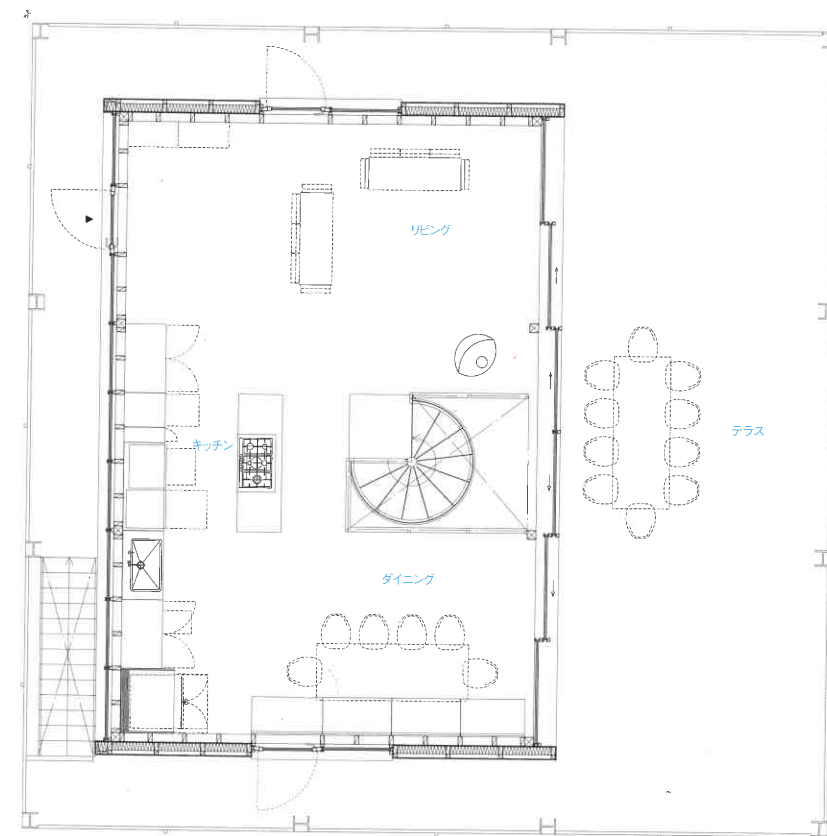
リビング。断熱層と3層ガラスにより、
外気や湿気から内部を守る。

スキー場で暮らす欲び

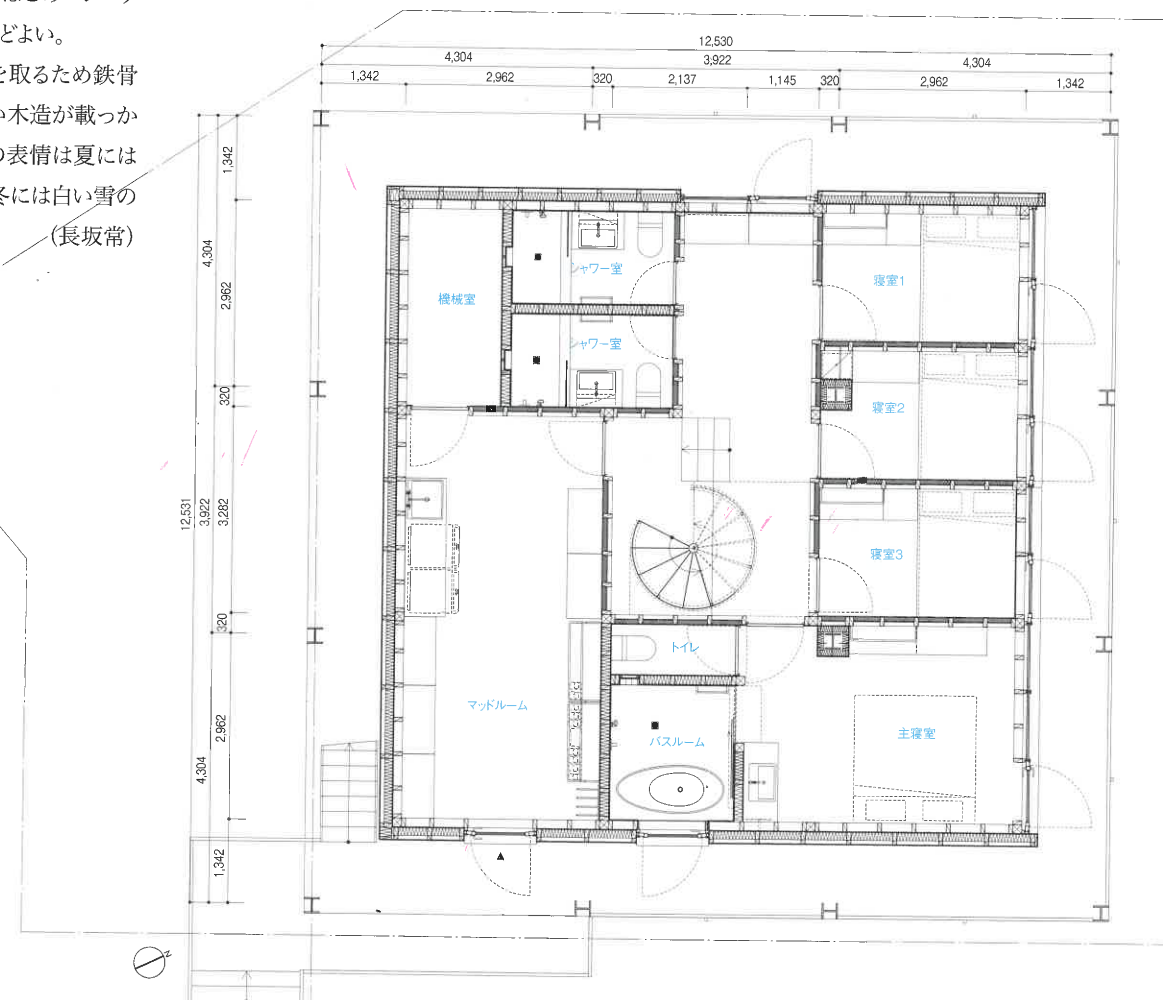
自分の家にスーパーマーケットがついていたら、庭がサッカー場だったら、風呂がプールだったら、誰もが一度は子供の頃に考えただろう。きっとスキーが大好きな子供なら、家にスキー場がついていたらと考えるはずだ。この家はまさにそんな家で、スキー場のコース内にこの家は建つ。アメリカユタ州のパウダーマウンテン自然公園内に建つシャレー。南北に広がる緩やかな斜面の頂点をやや北に越したところに建つ。この家の直下がスキーコースで、そのコースをわずかに上に外れたところに下階のマッドルームがある。スキーコースからはマッドルームを介して家へとアクセスする。同階に子供3人の各部屋と両親の寝室があり、階を上がると南北に視界が開け、北側には自然公園の雄大な風景が広がる。スキーで疲れた体をその眺望と美味しいご飯や飲み物で癒やし、団欒を楽しむ。南側には無数のシャレー群があり街に接続しているため街の楽しみも味わえる。スキー場の中にありながら、同時に街の山手に位置するという、子供じゃなくても夢のような「おうち」だ。

自然公園内にあるため、非常に厳しい建築規制が設けられ、与えられる面積も小さくその中で最大の容積を取り、とてもコンパクトにできている。ただ、その雄大な自然を感じるにはこのコンパクトさは寄り添う感覚が得られちょうどよい。構造は、斜面からしっかり距離を取るため鉄骨で組まれ、その上に断熱性の高い木造が載っかり、室内の環境を守る。その木の表情は夏には周辺の地面や石に合い同化し、冬には白い雪の中で家の暖かみを帯びる。

(長坂常)



2階平面図



1階平面図 縮尺1:120

